

第6回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成21年10月28日(水)

午後1時30分から

場所 職員会館 3階 大会議室

【出席者】

	氏名
委員 (6名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、石川利江委員、渡辺晃司委員、野崎光生委員（欠席：高木直樹委員、樋口敦子委員）
事務局 (6名)	高見澤都市整備部長、横山まちづくり推進課長、 宮下中心市街地活性化対策室長、瀧澤係長、長谷川主査、神田主査、

1. 開会

2. 都市整備部長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議事

(1) 数値目標の最新数値について <資料1> (説明者:事務局)

(2) 基本計画のフォローアップについて <資料2> <資料3> (説明者:事務局)

国からの通達について

(委員)

- ・変更の理由は何か？
- ・報告時期の見直しは集中して大変ということか？

(事務局)

- ・各都市にバラつきがあった。一律に見るため、イメージ図とフローチャートに沿って評価すると言うのが主旨。
- ・12月に報告しても、国で公表できたのが5月だった。行政の事業は年度単位なので、その辺りを考慮してのことだと思う。

目標ごとの説明

・目標 「訪れたいまち」について

(委員)

- ・善光寺の駐車場に関して。善光寺の裏に駐車場があるのは良くないいろいろな所で話には出すが、専門の委員会はあるのか？
- ・何がしらの会を作って善光寺と話して方向性を示せば、受けてくれるのではないか。あまりにも善光寺に遠慮しているのではないか。
- ・商店主などに聞くと、リュックサックを背負って善光寺に行く人が増えたと言っている。中央通の通行量が増えたのは、善光寺のおかげもある。「歩きたいまち」「訪れたいまち」にとって、善光寺の影響はかなりある。
- ・善光寺の裏の駐車場は誰もが問題に思っていると思う。利権をどこかに移さないと難しい。行政がどうやって取り組むかという問題である。

(事務局)

- ・検討委員会というところまでは至っていないが、庁内で特定課題としてプロジェクトチームで検討作業をしている。駐車場という特定のポイントに限ったことではなく、回遊性をいかに起こすかといった検討をしている。

(委員)

- ・商工会議所でも話に出た。会議所として取り組むというのも一つある。善光寺と話した中では、提供してもいいよというニュアンスはあった。
- ・暫定的には、善光寺の前で人を降ろして後でバスが待つというような事も考えられる。会議所なり、どこかで会を作って提案してもらいたい。
- ・善光寺裏の駐車場の問題は、行政と言うよりは、我々のほうに入ってくるかもしれない。商工会議所にも話してみよう。そういう事も考えていかななくてはならない。

(委員)

- ・「訪れたいまち」の調査ポイントが仁王門前1ヵ所のみというのは、あまりにも善光寺を意識しすぎてしまった。
- ・ポイントが1ヵ所ということだが、今から変更できるのか？

(事務局)

- ・基本的にはできない。報告書の書式に関しては、目標に関したことを記載するようにとの事だ。サブ資料としては、数値目標以外のデータも集めている。まち全体の賑わいは、どのような状況かということでは、JRやバスの乗降者数など、可能な限りのデータを集めて検証している。

(委員長)

- ・評価は で良いか？

(委員全員)

- ・了承

・目標 「住みたくなるまち」について

(委員)

- ・大阪の空堀というところで「からほりクラブ長屋ストックバンク」という事業をやっている。若い建築家が入って「古い長屋や空き家を持っている人は活用しませんか？」という形で活動している。これは再開発という方法ではない。行政の都市整備局がコープズオン事業ということでバックアップしている。3つ程の大きな建物を再生複合ショップとして、古い建物をそのまま使い、屋根に植栽をして緑化の補助金を取ったりしてやっている。古いけれど魅力的な地域になりつつある。長野も1本内側を歩くと、古い建物で使われていないものがたくさんある。「まちなか居住」を進めるためには、業者だけでなくアートや若い建築家グループの力をうまく使い、こういった活動を施策の中に入れて欲しい。
- ・街を面白くしようと若い人達が入り組み始めている。信大の建築家グループの人達と勉強会も始め、熱心な人達が長野にも出てきたんだという事を感じている。ぜひ、市の方も参加して若い人達がやろうとしている事を汲んで欲しい。
- ・権堂にも立派な土蔵がある。裏側は買われて、つぶして更地になってしまった。権堂地域の土蔵はあの辺りが限界。
- ・事業シミュレーションをしないとわからないが、実験事業をやろうと物件を探している矢先なので検討したい。
- ・20～30歳代の若い人は、古い家に住みたい人が増えてきている。

(事務局)

- ・まちなか居住については活性化協議会と連絡を取っている。現実には細かい手間がかかって大変だという認識を持っている。

(委員)

- ・貴重なものは市で買ってもらったらどうか。
- ・市に対する誘い水的な面もある。施策をどう作り上げていくか、事業シミュレーションをしながらどんな手段があるか落とし込んでいきたい。
- ・他市で、競売物件を有志で買って事業をやるというシミュレーションをやった事があるが、難しい。採算が合わない。傷んだ家屋の修正にも掛かる。その後の事業性がどうなるかだと思う。

(事務局)

- ・市は、目的が無いと不動産を買うという事は難しい。

(委員)

- ・「住みたくなるまち」で人に住んでもらわないと中心市街地の活性化は進まない。人が住まないと生活を売っている店は無くなっていく。中心市街地のエリアの中だけでなく、その近郊にも人が住む仕組みをどこかで作っていかないといけない。
- ・商店主の人が、もう一度住まいを中心市街地に戻すというのも大事。神楽坂も今注目されているが、商店の人がそこに住んでいる。街の雰囲気も含めて何か違う気がする。

- ・権堂などは弱小商店が多い。戻って住む坪数ではない。「戻ってきて」と言っても、住む事ができる所は、あまり無い。大門の辺りは奥行きが深いが、権堂は拡幅したら、無くなってしまいかもしれない。
- ・3階建てで、1階が商店で人が住んでいない物件(普通の街ではこういった物件が多い)を再生して、商店主の人に住んでもらうという事業シミュレーションを考えていた。ところが、長野にはこういった物件が無い。長野の商店は小さく2階建てが多い。
- ・中心市街地で商売をして、郊外に自宅を作るというパターンが多かった。
- ・そういう方に街中に戻ってもらうだけでも随分違う(人口の問題だけでなく……)。
- ・目標達成は、現実的には難しそうだ。マンションが一棟建つと、どの位人口が増えるのか？
- ・現在、マンションの需要はあるのか？
- ・離婚や生涯独身など、世帯数は増えている。が、世帯数が増えてマンションが必要なのと、人口が増える事は、別の問題。
- ・潜在的には需要があると思うが、この雇用環境だと難しい。
- ・最終的に目標達成が難しいとなっても、仕方ないという結論になるのか？

(事務局)

- ・長野だと、一棟あたり平均50戸くらい。一棟建つと100人くらいの計算になる。
- ・芹田地区が150人増えているのは、マンションの影響と思われる。
- ・目標達成が難しくなっても、ペナルティーがあるとかが、補助金を返すなどの話は聞いていない。
- ・数値目標というのは、目標をたてて進めようというものであって、必ずしも結果は問われない。

・目標 「歩きたくなるまち」について

(委員)

- ・自転車を利用しているのはどんな人達か？

(事務局)

- ・一番多いのは通勤・通学の人と思われる。

(委員)

- ・イトーヨーカドーなどのスーパー、TOMATO食品館も多い。
- ・近くの人が近くに動く移動手段として、年配の方や、事業所の人でも自転車を利用している。
- ・自転車を増やすために、安全に向けた整備などをしてはどうか。利用度が上がる。
- ・大通りには自転車専用道路がある。が、権堂は自転車道をつくる幅がないので、標識を自転車通行可の標識にもらった。
- ・自転車を使って買い物に行っても、停める場所が無いとなると、自転車利用が減ってしまう。トータルで整備する事によって、自転車の活用が促進される。
- ・私はよく街の中を歩いているが、人が増えていると実感する。あきらかに、長野の人ではない人が街中を歩いている。訪れる人が増えているのかもしれない。
- ・健康志向もあって、社内でも歩く人が増えてきている。
- ・自転車に自由に乘れるというのは、最近、飯田市が支援している。

(事務局)

- ・エコやガソリン高騰の影響で自転車利用が増えていると思われる。
- ・これからは環境の問題に取り組まなくてはならない。長野市も道路課で自転車専用レーンの設置や、どういったネットワークで長野駅に来るかなど、検討し始めた。中心部では自転車置き場のスペースが無いという問題がある。これからは環境問題の視点からも自転車の利用は多くなると思われるので視野に入れながらやっていきたい。自転車に行政がどう関与していくか(公共交通についても協議会で検討しているが)。システムを変えないといけないと認識している。

(委員)

- ・自転車利用者のマナーの向上も必要だ。
- ・放置自転車の問題もある。

(委員)

- ・18年度の歩行者通行量は、イベントと重なってしまい、特異値となってしまったが、その数値が歩行者通行量の基準値となっている。そのため、目標数値に影響が出ている。

(事務局)

- ・全体的なトレンドで見たほうが良いと思うので、来年度の数値に注目している。

・目標 「参加したくなるまち」について

(委員)

- ・生涯学習センターの人数ではなく、稼働率はわかるのか？
- ・検討会議でどんな事を検討したのか？
- ・もんぜんぷら座と生涯学習センターの両方を使った事があるが、使い勝手が全然違う。
- ・もんぜんぷら座には検討委員会、運営委員会がある。生涯学習センターには評価するところが無い。
- ・利用者の声を聴いて、検討会議をやらないといけない。その上で対応すれば、利用率も上がる。

(事務局)

- ・検討会議はこれからやる予定である。

(委員)

- ・住民自治協議会の事務局もできるのか？

(事務局)

- ・もんぜんぷら座の8階にできる。

・総評について

(委員全員)

了承

(3)基本計画変更について <資料4> (説明者:事務局)

(委員)

- ・政権が交代したが、国の方針はどうなっているのか？

(事務局)

- ・国から何も聞いていないので、様子見の状態である。国交省の関係では、基盤整備などは一定割合は下げると業界紙などには出ている。詳細な情報は、まだ入ってこない。予算が付かず事業期間が延びていくとか新規のものは見直したとかいう調整は出てくると思う。道路整備などを含めていろいろな事業で生まれているので、個別の事業でダウンするものがあるかもしれない

5. 事務連絡

6. 閉会